

—議事概要—

■議題（１） 第６回会合における宿題事項について

発言者	発言内容
日整連	○VCI と PC 間のケーブルについて、前回の資料にあった「技術的な妥当性についてはスキャンツールメーカーに確認」との文言が今回はないが、特に確認の必要はないとの認識でよいのか。
事務局	○困ったり迷ったりすることがあればツールメーカーに聞いてほしいとの立場は変わらないが、確認することを整備事業者の義務にするものではない。
機工協	○LTSC というタイプの Windows10 は産業用で、バージョンアップによる問題回避のため、長期にわたりバージョンアップをしない代わりに最低限のセキュリティ対策やバグの修正だけは保証する OS とのことである。整備工場のような厳しい環境においてはむしろ動作の安定性面から優れているとも言え、Pro や Home と同じくくりにしてしまうと皆さんの機会を失ったり、運用面で混乱を招いたりすることにならないか。
事務局	○もしそうであれば、来年の 10 月の Windows10 のサポート終了後でも、IoT Enterprise 上で運用する特定 DTC 照会アプリの作動を保証することになるが、それは現実的か。
事務局 (機構)	○2025 年 10 月以降に Windows10 IoT Enterprise が保証されないならば我々の特定 DTC 照会アプリのサポートも途絶えてしまい、結局このアプリは動作保証できないので難しい状況である。
機工協	○2025 年 10 月以降は、Microsoft 社として、Windows10 IoT Enterprise LTSC のサポートをしないと認識されているのか確認したい。
事務局 (機構)	○そういうことになる。Microsoft 社の対応がそのようになっているため追従せざるを得ない。
機工協	○そこの認識が違っており、ホームページを見る限りは「サポートする」と書いてあったと思われる。
事務局 (機構)	○サポートとはセキュリティ対策やバグ修正のみのサポートであり、今後 Windows10 のバージョンが変わらない一方で Windows11 が出てくると特定 DTC 照会アプリも追従することとなり、結局 Windows10 が使えなくなることに同義になる。
機工協	○会員の中に、私が先ほど申したような意見を持っている方がおられたので発言させていただいた。
事務局	○機構の発言は、Windows11 が進んでいくといつかは Windows10 で動作する DTC 照会アプリを見捨てると聞こえたが、Windows10 が安定して

	動いている間はなくさないとの理解でよいか。
事務局 (機構)	○言い方に問題があった。ご指摘のとおり、Windows10 が続く限りは機構としてなくすことはしない。
日整連	○車両と VCI 間のケーブルについては、頻繁な抜き差しでガタが出ることもなども考えられることから、補修部品の確保や機工協における認定の条件なども含めてご検討願いたい。
事務局	○とても大事な論点と思う。自機工、機工協よりそれぞれ一言コメントを頂きたい。
自機工	○ツールメーカーのポリシーに基づき修理するケースもあれば補修部品の購入を勧められるケースもあると思うが、一般的な話として、何らかの形で各社とも準備ができているものと考えている。
機工協	○使用者が気付かぬうちに接触不良などで正しい情報が送られないということは十分あり得る。本来は定期的に第三者が確認すべきと思うが、現状では使用者が確認する以外ない点を危惧している。
事務局	○劣化・摩耗による不具合としては、つながらないという症状以外にどのようなものが起こり得るか。
機工協	○多くの症状はつながらないことと思うが、半接触のような形だと再現性が取れないようなことが起きる可能性がある。
事務局	○補修・交換用部品があるか、機工協の認定の範囲内で補修体制が整っているかなどはツール選定に際しての大事な情報であり、一覧として提供することが望ましいと考えるので、次回以降の宿題として資料4を修正する形で可視化することとしたい。
自工会	○量販店やメーカー系ディーラーは多くの指定工場を抱えているため、宿題事項1の取扱細則に係るやり取りはサービス本部が代表して行ってもよいか、改めて確認させていただきたい。
事務局	○それは可能とする。その趣旨で「工場」ではなく、「指定整備事業者」という言い方をしている。
自工会	○我々も今後のフォローに際し、販売店にはその旨伝えていきたい。

■議題（2） スキャンツールの認定・販売状況について

発言者	発言内容
自工会	○同じ機種で番号が2つあるものは、何が変わったことによって番号が追加されたのか。
機工協	○JASEA-KS-11 番と 37 番については、元々11 番が有線のみで型式試験を取っており、新たに無線を追加して適合になったものが 37 番である。
自工会	○11 番は、37 番を取れたことによって無線での使用が可能となるか。

機工協	○両者の機能は同じだが、無線対応にするためにはバージョンアップが必要になる。
自工会	○（11 番を）バージョンアップすれば対応可という考えでよろしいか。
機工協	○おっしゃるとおりである。

■議題（３） 準備状況指標の進捗と追加対策について

発言者	発言内容
事務局	○最後の追い込みをかけている中で、こういった問題・課題があるかを各運輸局から一言ずつ伺いたい。
沖縄総合事務局	○ID 登録率は約 94%で 20 社ほどまだ未登録であるが、意思確認はできており、今後速やかに登録していただく予定。ただ、2 社ほど方向性が分からないところがあるため、再度調査をかけて明確にしていく予定。 ○アプリの使用率等が平均を下回っている状況を踏まえ、今後は振興会と連携して取組を進めていきたい。
事務局	○初回ログインへ向けたアプローチは大事なので、ID 登録後のフォローこそよろしくお願いしたい。
九州運輸局	○鹿児島では、離島も含め、振興会の担当者がスキャンツールを持って事業者へ出向き、実演や練習を重ねて頂いていて頭が下がる思い。 ○鹿児島に限らず九州一円で電話による説明の取組をされており、少なからずアプリの使用までたどり着いている状況である。
事務局	○本当に鹿児島の振興会の取組には頭が下がる。その中で何か苦労している点などがあれば 1、2 紹介していただきたい。
九州運輸局	○鹿児島の例だが、スキャンツールの買い控えがある中、7 月 30 日からは補助金の申請が始まることから、購入に際してのアドバイスや購入後の届出などについて周知しているとのことで、九州全域でのアプリ使用率はさらに上がっていくものと期待している。
事務局	○補助金に触れていただいて有難い。7 月 30 日から先着順で募集を開始するので、その点も事業者へお伝えいただきたい。
四国運輸局	○各支局及び振興会へ事務連絡を発出し、各事業場の今後の意向や進捗状況を伺いながら進めている。 ○まだ一定数 OBD 検査に対する理解不足がみられるため、振興会からの個別ファクス送信、整備主任者の技術研修時のデモンストレーション、高齢者等へのパソコンの初期設定支援（8 月をめどに実施予定）などを実施し、まずは ID のログイン率を上げていきたい。
事務局	○高齢者等でパソコンが苦手な方はどの地域も一定数おり、個別にケアするしかないため、振興会と連携して対応していただきたい。

中国運輸局	○ID 登録等については数値的に 100%となっており順調に伸びている。 ○ただ、アプリの使用率が若干伸び悩んでいるため、振興会の協力を得ながら個別対応で少しでも伸ばしていきたい。
事務局	○振興会が一括登録を頑張っていたためか確かに ID 登録率は非常に高いが、登録した後は触っていない事業者が一定数いるとの理解か。
中国運輸局	○そういう形かと思う。まだ機械をそろえていないところや、ディーラーでもまだ買い控えされているところもあると聞いている。
事務局	○ID 登録はしたものの手をつけていない事業者については機構でも洗い出しを進めており、しっかりと事業者のケアをしていく必要性を感じているため引き続きよろしく願いたい。
近畿運輸局	○ID 登録は、京都はほぼ終了し、奈良、滋賀、和歌山も登録しない意向を示す事業者を除けばあと 10 数件程度でゴールが見えてきた。 ○大阪と兵庫は、母数が大きい中で、個別の説明が必要な事業者が一定数いるために少々遅れている感じである。 ○登録しない理由として「パソコンの使い方」の観点があり、兵庫では振興会が既に初期設定の研修を行っているほか、大阪では戸別訪問も含めた研修を予定しているため、今後フォローできるものと期待している。 ○登録しない理由として「パソコンの使い方」の観点があり、兵庫では振興会が既に初期設定の研修を行っているほか、個別訪問も含めた対応を予定している、大阪では初期設定研修の日程調整をしているところであり、今後フォローできるものと期待している。
事務局	○近畿局では、国と機構が講師として出向くものも、振興会が単独で行うものも含めて研修の実施率が高く、熱心にやってくれていることが分かるが、研修時に感じた課題や全国的に進めた方がよいことなどがあればアドバイスいただけないか。
近畿運輸局	○直接出向いて説明することで納得いただけることもある。 ○OBD 検査対象外の車でもスキャンツールは使えるといった話を初めて聞かれる方もおり、根気よく周知することが必要と感じる。
事務局	○通常業務で忙しいと思うが、対面で説明することで理解してもらえる現状もあるため、他地域でもぜひよろしく願いたい。
中部運輸局	○全支局のうち 5 支局とも平均を下回っている状況だが、愛知以外の 4 支局では ID 未登録事業者全てに連絡して案内し、振興会からもパソコンの使い方などの個別サポートを行っているため、今後伸びてくるものと考えている。 ○愛知は意向調査自体がまだ終わっておらず、270 工場のうち回収は 95 件で回収率は 35%ほどである。回答のあった事業場へは振興会へ相談のうえ登録してもらうよう促している。

	○スキャンツールを購入してからでないと登録できない等の誤解がみられるほか、まず振興会の説明会に参加してから登録するとの考え方も多く、伸びが遅くなるかも知れないが継続して対応していきたい。
事務局	○愛知が伸びないのは大阪同様、事業者数が多いためと推測しているが、三重は初回ログイン率や初回アプリ使用率が低く、研修の回数や予定もあまり多くないのでどのような状況になっているのか。
中部運輸局	○三重に関しては元々ID 登録自体が低く、個別に案内してやっと 90%まで来たところで初回ログインまで手が回っておらず、今後、初回ログインに関して案内していく形となる。
事務局	○電話で案内し、その後研修を受けてから実際に使ってみるという流れだと、三重の今後の研修の予定回数の少なさも若干気になるので、その辺についても振興会とコミュニケーションを取っていただきたい。
中部運輸局	○研修を受けてからというところは愛知で、三重に関しては既に振興会から直接連絡した上で対応していただいている。
事務局	○承知した。次回急激な伸びを期待しているのでよろしく願いたい。
関東運輸局	○まず意向調査を関東で進め、取得意向のあるところとないところにすみ分けた上で 10 月までの取得率 100%を目指すことで動いてきた。 ○意向調査は完全に終了し、振興会の手厚い支援などもあって「意向あり」の ID 登録率は 90%超、初回ログイン率もほぼ 90%に近づいている。 ○好事例としては、茨城において未登録の事業場へファクスによるアンケート調査に加え、電話ヒアリングを行って口頭で説明するかたわらで ID 登録を促し成果を挙げたほか、千葉では未登録事業場へ封書で登録を促す案内文を郵送し大きな効果があったとのことで、時間と手間を費やした大変な作業に対してとても感謝している。 ○7 月には毎週土曜日、振興会独自の OBD 研修を実技含めて進めていただいたおかげで登録率が向上している。土曜日開催とすることで支局の駐車場が使えるほか、ふだん研修会等に参加できない認証工場の方々にも多くご参加いただけた。 ○「意向なし」事業場は 180 か所残っているが、これらは 10 月以降の取得に向けてアナウンスを進めていくことでひとまず保留とし、残り 5.8%の取得意思のある事業場へアプローチをかけて取得を進める。
事務局	○関東は前回からの伸びが大きく、局、支局、振興会の尽力に感謝する。 ○実車を使った土曜日の研修や郵送による案内は、ぜひ他のブロックでも参考にしていきたい。 ○その他、取組を進める中で気付いた難しさ、課題、ついて来られない事業者の悩みなどあればご紹介いただきたい。
関東運輸局	○山梨の支局で全指定工場に確認のファクスを送ったところ、特定 DTC

	アプリのインストールがうまくいかなかったとの回答が寄せられた。 ○特殊なケースだが、茨城の陸上自衛隊の駐屯地では、隊としてのネット使用許可が下りないため、対象車は民間車検場に委託することにしたという話があった。 ○ログインや登録段階での難しさがまだ残っていると思われるため、初期設定支援を中心に取組を進めていく所存だが、直近で実演形式の講習会を行った際にビデオ映像を撮ったところ、実車を使って OBD 検査をしたかのような素晴らしい映像が撮れたので、今後の講習会・研修会で流せば興味を持っていただけるのではないかと思った次第。
北陸信越運輸局	○今後 OBD 検査を実施するかどうかについて、アンケート形式で意向調査を進めている。 ○振興会においては表に書かれていない独自の説明会や勉強会も行っているため、中には実車を用いて実際にやってみるといった方式も取られていることから、今後のさらなる伸びを求めている。 ○補助金を待っていて ID 登録から先へ進んでいないケースも若干見られるため、補助金の申請も含めた ID 登録後の処理に係る周知や、未登録事業者へは電話により登録を促すなどの取組を今後行っていく考えである。
東北運輸局	○ID 登録率はほぼ全国平均値で推移しており、山形は 100%だが、その他ではまだ登録を完了していない事業者がみられる。 ○5 月半ばから意向調査を開始しているが、宮城を除いて 5 県分は今月末で完了。宮城も 8 月末で完了予定となっており、ID 登録率の上昇が期待できる。 ○8 月 5 日からは技術安全部長と整備事業者との意見交換会もスタート予定であり、補助金申請の説明に加えアプリの使用率の向上もお願いしていきたいと考えている。 ○振興会からの情報ではパソコンに不慣れな事業者も多く、個別に電話対応をされるなどかなりご協力いただいていることに感謝したい。
北海道運輸局	○意向調査結果が全国平均を下回っている札幌、函館、北見については、母数が少ないため、「意向あり」事業者が全て登録すれば 95%以上になるので、ID 登録についてはそれほど心配していない。 ○一方、初回アプリ使用率はかなり低くワーストワンの地域もあるが、スキャンツールの補助金を待っている事業者が非常に多く、先週末ようやく対象となる検査機器が公開されたので、今後アプリ使用率は上昇していくものと考えている。
事務局	○確かに補助金を待っているとの声はよく聞くので、来週伸びるといいと思っている。 ○最後に総括して日整連と自工会からコメントいただきたい。

日整連	○各振興会におかれては、訪問や郵送など、お金や時間を使ってご対応いただいていることに感謝する。 ○最近では事業者側から支部ごとの説明会や勉強会の要望が増え始めていると聞き、地域差もあろうが焦りが出てきた面もみられるので、今後の伸びを期待して引き続き頑張っていきたい。
事務局	○もう少し早く電話をしていけばよかったのかも知れない。 ○続いて自工会より、資料 5-2 の説明と併せてコメントをお願いしたい。
自工会	○メーカー系販売店における ID 登録率、初回ログイン率については多くが既に 9 割強に達しているが、初回アプリ使用率については一部を除いて各メーカーで掲げている目標に対してまだ乖離が大きく、今後、地道なフォローをしていきたいと考えている。 ○現在の各社のフォロー体制として、全国販売店への書簡依頼、販売店会議や研修での説明、地域スタッフによる販売店フォローなどを進めてきたが、さらにプラスアルファしたフォローを実施している。 ○今後の動きとしては、セキュリティやスキャンツールのセットアップ等の課題はあるものの、メーカー一律で問題が起きているわけではないので個々の対応を重視していくとともに、直接 OBD 検査を担当していただくサービス部門だけでなく営業部門にもフォロー範囲を広げるなど、残り 2 か月という短い期間を使って愚直に取組んでいきたいと考えている。
事務局	○まだスキャンツールを買っていないディーラーは多いのか。
自工会	○純正スキャンツールについては認定が間に合っていない面があるので補足させていただく。
自工会	○スキャンツールについて補助金を待っているディーラーは存在する。 ○6 月 21 日に補助金の件がホームページに公開されたと同時に各販売会社へは買うよう指導を行っている。 ○4 月 1 日以降に購入したものは補助の対象になる点を積極的に説明しつつ、早期の導入を指導している。
事務局	○補助金が出たら皆さんに買っていただくことを本当に期待しているのでよろしく願いしたい。 ○他に全体を通して何かご質問やご意見はあるか。
NTSEL	○輸入ディーラーでの様子見、OBD 検査対応の意思確認状況、180 社程度が態度不明といった運輸局報告などを踏まえると、ID 登録率が 100% にならないことはあり得るのか。
事務局	○10 月時点で 100%にならないことは想定されるが、ID 登録だけは簡単にいつでもできるため、登録は引き続き呼び掛けていく。
NTSEL	○承知した。初回ログイン完了率と初回アプリ使用率についても現状では

	分母が全指定工場数となっていると思うが、場合によってはどこかのタイミングで ID 登録者数を分母として集計するとまた違ってくるかと思った次第。
事務局	○ちょうどご指摘のような数字を事務局として作り始めており、意思のある方や ID 登録した方を分母としたときにどうなるか分析してみたい。

■議題（４） プレ運用等において明らかとなった課題について

発言者	発言内容
日整連	○3 ページについて、ECU に現在故障、過去故障に関係なく特定 DTC が記録されている場合は不可と理解したが、OBD 検査ポータルホームページのプレ運用の最終ページの排出ガスの 2 番目には、「警告灯を点灯させるための信号（MIL 信号）が出力されているもの」と書かれており、これがあることでいかにも現在故障だけと読み取れてしまう。4 番目の「当該装置に係る特定 DTC が 1 つ以上記録されているもの」だけ適用すれば、現在故障でも過去故障でも賄えるのではないか。
事務局	○この文章は保安基準をそのまま貼っていると思うが、保安基準がなぜこうした書き方をしたか推測するに、4 番目だけで事足りるものの、2 番目は OBD 検査導入前の検査と整合させるため法技術的に書かざるを得なかったのではないか。
事務局	○恐らく別添 48 が元々の内容と思われ、その意味合いで推測のとおりだと思う。
日整連	○我々も現在故障だけが対象と勘違いしていた面がある。今出ている資料の書き方も勘違いしやすいかも知れないとの懸念はある。
事務局	○元々は過去コード、過去故障の定義がなされておらず、皆さんと我々の間で共有されていなかったために生じた誤解かと思う。 ○特定 DTC の定義として、当該 DTC のみでは故障かどうか判断できないものや故障でなく一時的な異常（自動ブレーキのカメラの前に落ち葉が付くと警告灯が点くなど）は含まれない。逆に、特定 DTC が立っているということは必ず基準不適合が推断できる状態であり、必ず直して消してほしいという趣旨である。
日整連	○OBD 確認を行っていいシチュエーションとしては点検整備を行う、または行う予定の車になっているが、車検見積りだけしてやめた場合、この見積もり自体を点検整備と言ってよいか不安との声があった。
事務局	○結論から言えばやっていただいて構わない。自社で点検整備をするであろう車、すなわちお客様に対して説明責任を負うという信頼関係の下で車を整備する人に使っていただきたいので、見積もりの際に OBD 確認をやっていただくことは構わない。

日整連	○特定 DTC 照会アプリにはセキュリティ上タイムアウト機能があることは理解しているが、車両情報を再入力する前にタイムアウトしていることが分かれば無駄な入力をしなくて済むので何とかできないか。 ○タブキーで入力する際に、その移動が想定と違ってトリッキーな動きをするので改善していただきたい。
事務局 (機構)	○1 点目については、車両の情報入力段階ではサーバーとの通信が行われておらず、検査の要否確認ボタンを押した瞬間に初めて通信が行われ、連続操作が行われていないためにタイムアウト画面となってしまうものである。ご指摘を踏まえ、改善可能か今後検討して参りたい。 ○2 点目についてもアプリの仕様を確認し、改修を検討して参りたい。
事務局	○参考資料 4 に、OBD 検査システムに関するご意見・ご要望ページの情報を載せている。これはどなたでも登録できるので、ぜひ周知いただいてこのシステムをみんなで使いやすいものにしていきたいと思う。

■議題（５） 第２回 OBD 検査システム・検査用スキャンツール技術連絡会

の開催結果について（報告）

発言者	発言内容
機工協	○特定 DTC 照会アプリの動作環境について、2020 年のマニュアル第 1 版では OS の指定が「Microsoft Windows10 以上で Home または Pro、division2004 以降」となっていたが、2022 年 10 月 18 日では後半のところが「Version22H2」に変わっている。恐らく OS が内部のバージョンアップをしているためと思われるが、特定 DTC 照会アプリは上位互換性をもって動くという理解でよろしいか。
事務局 (機構)	○Microsoft 社の OS のバージョンアップに伴い division2004 のアプリは動作の保証範囲外となったが、動作しないかどうかは実際に試してみないと分からず、多少の画面乱れはあってもアプリとしての機能は動いている可能性はある。しかし、現在の特典 DTC 照会アプリの動作保証範囲は 22H2 である。
機工協	○機構協で認定作業をする際に申請者が古い OS で提出していることもままだり、知らないうちに変わっていて後で問題が起きると困るので、変わる際は事前に当方へご連絡いただきたい。
事務局 (機構)	○今後こういった変更がある場合は速やかに機工協へお知らせするようにさせていただく。

■議題（６） 令和 6 年度スキャンツール補助金について

発言者	発言内容
機工協	○これまでは Windows10、11、いずれでも補助金が出るとの前提で動いてきたことから、今回の発表で Windows11 限定となって非常に困っているとの話を会員のツールメーカーから聞く。その辺りをぜひご配慮いただきたい。
事務局	○Windows10 のサポート終了問題については準備会合及び技術連絡会で議論してきたところ、整備事業者に対し、来年 10 月以降、使用できなくなる可能性がある Windows10 のみに対応したツールの購入を補助金により推奨することは適切でないとの考えによるものである。
自機工	○補助金は VCI だけでも適用されるのか。
事務局	○そのとおりである。

■議題（７） 今後の進め方・中長期的課題について

発言者	発言内容
事務局	○この後、本格運用開始までに実施すべきことや本日の議題全体、資料 9 と参考資料 5 に関してご意見・ご要望等があればお願いしたい。
自工会	○うっかりミスで OBD 検査をせずに通してしまうことがないように、改めて整備事業者への再周知を図っていききたい。関係団体においても個々のご判断で再周知に努めていただきたい。
事務局	○とても大事な視点と思うので業界内でしっかり周知していただくとともに、国の方からも事務連絡なり通達を出したいと思う。
自工会	○10 月以降に OBD 検査や OBD 確認を行う整備士や検査員は、ぶっつけ本番になってしまうのか、練習のような形は可能なのか。 ○1 軒目の整備工場で見積もりのために OBD 確認を行ったものの、高いので違う店に行ったというケースはどうやって見分ければよいのか。
事務局	○1 点目は、OBD 確認モードであれば、記録としてサーバーには残るものの何回でも練習として行っていただいても構わない。 ○2 点目は、事業者が変わると OBD 確認の主語（実施主体）が変わるため、2 軒目の整備工場では新たにやり直していただく必要がある。
事務局	○京都の振興会より、関東運輸局で撮られたビデオ映像を共有すればどうかとの提案がチャットで来ている。
関東運輸局	○共有することは差し支えないので、後ほど事務局の方へ上げたい。
事務局	○事務局にて受け取り、共有できる範囲で共有させていただきたい。
事務局	○有益なご意見に感謝する。頂いた動画を拝見し問題なければ、例えば OBD 検査ポータルに載せて誰でも観られるようにするなど、できるだけアクセスしやすいようにしたい。

	(※後日、関東運輸局より当該映像には個人情報が多く含まれているため共有不可である旨連絡があった。)
自工会	○長期的な目線で見ると、新たな検査員などにどのような説明をするか、一度は実演するようなものをどこの場で定期的に行ったらよいかなど、関係団体と相談の上、一定の水準に保つための取組をどのようにしていくべきか、今後話をさせていただきたい。
事務局	○大変大事なご指摘と思う。一義的にはポータルを見れば分かるようにポータルを充実すべきと思うが、それで事足りるかは注視しておかなければいけないと思う。 ○準備会合はあと1回で終わるが、今ご指摘のあったような新任の検査員をどうフォローしていくかなど、中長期的にフォローしなければならない課題はあると思うので、次回の最終回で各団体、運輸局を含めて論点出しをお願いしたいと思う。
事務局	○大阪の振興会から、一般ユーザーへのチラシを車検窓口に置くことを検討してほしいとチャットから提案が来ている。
事務局	○ご要望のとおり置かせていただくこととする。

(凡例)

自工会: 日本自動車工業会

JAIA: 日本自動車輸入組合

自機工: 日本自動車機械器具工業会

機工協: 日本自動車機械工具協会

日整連: 日本自動車整備振興会連合会

JAF: 日本自動車連盟

NTSEL: 交通安全環境研究所

事務局: 国土交通省及び自動車技術総合機構(注) 注:“(機構)”と併記

以上